

2020年度 野球規則改正（抜粋）

5.07 投手（a）項 正規の投球姿勢

(1) ワインドアップポジション

投手は、打者に面して立ち、その軸足は投手板に触れて置き、他の足の置き場所には制限がない。

この姿勢から、投手は、

- ① 打者への投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

(2) セットポジション

投手は、打者に面して立ち、軸足を投手板に触れ、他の足を投手板の前方に置き、ボールを両手で身体の前方に保持して、完全に動作を静止したとき、セットポジションをとったとみなされる。

この姿勢から、投手は、

- ② 打者への投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

【注2】(1)(2)項でいう「中断」とは、投手が投球動作を起こしてから途中でやめてしまったり、投球動作中に一時停止したりすることであり、「変更」とは、ワインドアップポジションからセットポジション（または、その逆）に移行したり、投球動作から塁への送球（けん制）動作に変更することである。

(d) 塁に送球

投手が準備動作を起こしてからでも、打者への投球動作を起こすまでなら、いつでも塁に送球することができるが、それに先立って、送球しようとする塁の方向へ直接踏み出すことが必要である。

以上の規則改正を踏まえ、

【2020年度改正の解説（投手の項）】

- 走者がいる時、投球動作を開始して、自由な足を上げ下げして、そのまま投球した場合でも規制しないこととした。
(走者がいない場合には、2018年度の改正により、従来どおりペナルティを課さない。)
- 投手が投げる際にグラブを叩く行為は、投球動作の一部とみなし、規制しないこととした。